

サイバー・キャンパス・コンソーシアム
平成23年度 第1回看護学グループ運営委員会 議事概要

日 時：平成23年4月30日（土）16：00～18：00

場 所： 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局

出席者： 宮本委員，仲井委員，石橋アドバイザー（ネット参加）

（事務局：井端，森下，平田）

1. 検討内容

今回は，昨年度に引き続き，コアカリ実現のための看護学授業モデル案について検討した。
はじめに参考情報として，事務局より新聞記事や文部科学省などの答申について説明があり，それらについて大学における看護教育という視点から以下の事項を確認した。

- ① 他の医療・福祉・教育機関や大学の教員と連携した新しい教育方法の提案
- ② 中学校の学習指導等を踏まえ，大学における教育目標の設定や教育方法の検討の必要性
- ③ 文部科学省答申「高等教育におけるキャリア教育・職業教育」（中教審の答申）に基づく職業実践的な教育に特化した大学を専門学校と提携しながら設立する動きを視野に入れ，大学教育の特色を活かすべく教養教育のさらなる充実および教養教育と専門教育との融合などの必要性

上記の確認事項に即して本委員会で検討する授業モデル案は，5年先の看護教育について ICT 活用という立場から行うこととなった。とくに以下の能力の育成を重視する。

- ① 教養教育と専門教育との融合
- ② 最新の医療現場で求められる ICT に関する能力
- ③ チーム医療の立場からネットワークを形成し活用するための能力
- ④ <問題の発見 - 考察 - 結論 - 検証>といった一連の論理を構築するための能力

2. 授業モデル案について

<まとめ案1>

5年先の看護教育について，文部科学省の指針に基づき大学教育における人材の育成を目指す。特に本委員会では，ICT を活用した授業シナリオについて「在宅看護論」という具体的な例をあげた上で提案する。

討議されたのは以下の点である。

- ① チーム医療のために必須の能力と言い得るネットワークを活用する授業であること
- ② 学生自らが主体的にかつ多角的な視座から学ぶことができる授業であること
- ③ 医療の現場において大きな責務を果たすナースに必要な最新の知識・技術・能力・経験などを自ら身につけることができるような授業であること
- ④ 受講する学生の達成度を正確に把握し，求められた水準に達しない学生については振り返り学習の徹底化など，教育的な配慮をした授業計画であること
- ⑤ チーム医療を実現するために必要となるコミュニケーション能力（表現・パフォーマンスなど）を身につけることが可能な授業であること
- ⑥ チーム医療を実現するうえで必須の能力となる ICT の最新技術を自在に使いこなす能力を身につけることが可能な授業であること
- ⑦ 個と全体とを視野に入れ，チーム全体のパフォーマンスの向上に貢献できる能力の獲得を可能とする授業であること
- ⑧ 高度にネットワーク化される医療福祉の世界に対応すべく大学の教育においても他の医

療・福祉機関などとの連携を密にした授業の展開であること

<まとめ案2>

看護教育の立場から医療看護の現場で求められる能力について分析を進めたうえで、「看護学方法論演習」という具体的な事例について ICT を活用した授業の展開という立場から提言を行う。

現代における医療の現場は、医師・看護師・薬剤師・臨床技師・理学療法士・作業療法士など多くの異なった分野に属する医療従事者によってチームが構成される。このような医療の現場においてチーム全体をコーディネートする役割が看護師にも求められつつある。

特に看護師は、患者に最も近い医療従事者として患者の立場からケアについて効果的な方法を探るとともに、チーム全体を視野に入れて最善の方法を選択する必要に迫られることがある。このような問題を解決するためには、混沌とした問題について必要な情報を収集し、解析し、最も確かな結論を導き、関連するセクションと協調的に連携し高いレベルでケアを実現させなくてはならない。

本委員会の討議では、以下の能力の必要性について論じられた。

- ① [問題発見—解析—結論]という一連の論理について、適切に考察する能力
- ② 多角的な立場から[問題—解析—結論]を冷静に検証したうえで不備を補うことができる能力
- ③ 患者と関係する各セクションとの両方に対して説明責任を全うするに十分なコミュニケーション能力
- ④ 看護の現場という不確定要素に満ちた状況にあってもいかなる事態に至っても真摯に向かい合う覚悟と能力
- ⑤ 他のセクションと強調し高いレベルでチーム構成を実現し維持できる能力
- ⑥ 現場を維持する責任感
- ⑦ 日々進歩する医療・看護に関する知識・技術の習得を可能にする自己学習能力
- ⑧ チーム医療の核となる ICT に関する知識と技術の学習能力

担当委員は、上記の課題について「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告」のどの部分に該当するか明示した上で授業計画を作成する。

また、授業計画は2年後期7回であるが、看護教育全体の立場から振り返り学習できるようにする必要があり、今後の発展への可能性として「5) 期待する成果」などにその旨を明記しておく。

授業の展開に関しても ICT の技術をいかに活用するか重要なテーマと言い得る。たとえばインターネット経由で、学生の得た結論に対して医師をはじめ関係する各セクションに所属する医療従事者からのコメントをいただく、などの方法を採用することも考えられる。このような学習環境を構築することで、医療の現場における ICT 導入に際して即戦力としての活躍が期待できる。

3. 今後のスケジュール

- ① 5月20日：モデル案の修正
- ② 5月30日：メールにおける情報交換。
委員会ですらに検討する必要がある場合は委員会を開く。
- ③ 6月初旬：意見聴取
- ④ 6月下旬～7月上旬：委員会開催。意見を踏まえたうえで整理し「まとめ」を作成する。

以上